

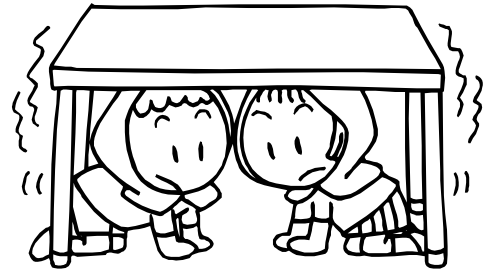


2025.9.19

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

地震大国日本

大正12年（1923年）9月1日に関東大震災が起こり、死者・行方不明者10万5千余人という大惨事になりました。この震災を教訓として、一人ひとりの防災対策の重要性を広く国民に理解してもらうため、9月1日が「防災の日」と制定されたのです。1980～2000年の間に起こった「マグニチュード5.5以上の地震が発生する年平均」のランキングトップは中国となっており、次いで2位がインドネシア、3位がイラン、4位が日本となっています。また発生頻度でも日本は世界ランキング4位ということになり、やはり世界の中でも日本は地震大国であると言えます。地震だけでなく、日本は台風、豪雨などの自然災害が発生しやすい国です。様々な災害に備え、日頃からの防災対策をしっかりとしておくことが非常に重要です。



災害に事前に備えるには『①家具等の転倒防止の備え ②災害用品の備え（非常持ち出し袋、貴重品の備え、常用薬・お薬手帳の備え、etc. ③備蓄品を確認して備える（食料品の日常備蓄、トイレの備え、在宅避難のための生活必需品、etc.）』などがあります。「政府広報オンライン」を検索すると詳細が載っているので、これらを参考に常日頃から非常時に備える準備をしておきましょう。

皆様の記憶に新しい能登半島地震は、2024年1月1日16時10分に、日本の石川県の能登半島地下16km、鳳珠郡穴水町の北東42kmの珠洲市内で発生しました。地震の規模はM7.6で、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度7を観測しました。奥能登地域には古い住宅が多く、耐震化率が50%前後と、全国平均の87%（2018年）を大きく下回っていて、住宅の倒壊被害が相次ぎました。人的・物的被害だけでなく、応急仮設住宅への転居や二次避難による人口流出などで、それまでの地域コミュニティが分断される難しい局面に置かれました。地震から1年以上が経ち、全ての避難所が閉鎖されたため、4月25日に石川県は「災害対策本部」を解散したとのことです。



少しでも被災地を応援しようと賛同してくださる皆様と共に、9月中旬に能登へ出かけてきました。被災地の現状を視察し、被災された方のお話を伺い、参加された皆様と共にお土産を買って、被災地の方々に激励の言葉と想いを伝えてきました。ささやかではありますが、今の私たちに出来ることで応援を続けていきたいと思っています。

ワクワクする作品展

明日は作品展、ご家族の皆様はワクワクされてみえると思います。どんな作品展にしようか、と学年ごとに担任同士が相談し計画を立てるのですが、なんとこれが1学期の7月から始まっています。アイディアが浮かんだら試作品を作って、園長である私がチェックするのですが、この壁がかなり高い。いえ、私が担任の前に立ちほだかるのは、決して先生たちにパワハラしようと思っているのではなく、子どもたちの思いと能力を考え、子ども目線で作品を作ってほしいと願っているからなのです。

第一に「作っている時にワクワクするか」、第二に「子どもの能力を発揮できるか」、第三に「作品で遊べるか、遊び心があるか」この3つのポイントです。先生たちが作る作品は上手(?)に出来ます。絵画も同様です。でもそれをお手本にしたら、みんな同じものになってしまう。そうではなくて、一人ひとりの作りたいものを頭の中で想像して、一人ひとりの能力を活かして作れば、テーマは同じでも1つずつ違う作品が出来るのです。未完成の作品を「今日も幼稚園に行って作りたい!」とワクワクしながら登園してくる子どもたちを想像してみてください。こんなに楽しいことはありません。

出来上がった時の「やったー!」という達成感。作品を持ち帰って、お家で遊ぶ姿を想像すると、こちらまで嬉しくなるのです（材料は廃品なので、長もちはしないかもしれませんが）。そんなお子さんの姿を想像しながら、個性あふれる作品をゆっくりご覧くださいね。

